

## 令和4年度第1回栗東市総合教育会議

開催日時 令和5年1月27日(金) 13:30～15:25

開催場所 庁舎4階 第1委員会室

議長 市長 竹村 健  
教育長 安土 憲彦  
教育長職務代理者 田中 和子  
委員 内記 一彦  
委員 朽木 徳壽  
委員 太田 加代子

事務局出席者 市長公室長兼危機管理監(西村)、秘書広報課長(佐藤)

教育部長(川崎)、子ども青少年局長(小林)、教育部次長兼スポーツ・文化振興課長(小山)、教育総務課長(大角)、学校給食共同調理場所長(西江)、学校教育課長(黒川)、学校教育課参事(高野)、人権教育課長(松浦)、生涯学習課長(赤井)、図書館長(西村)、幼児保育課長(内田)、幼児施設課長(村瀬)、書記(小林)

### 大角教育総務課長

ただいまから令和4年度第1回栗東市総合教育会議を開催いたします。

皆様方には、御多用の中御出席をいただき、厚くお礼申し上げます。次第に沿って進めさせていただきます。はじめに市長より挨拶をお願いします。

### 竹村市長

改めまして、本日は、第1回栗東市総合教育会議をお願い致しましたところ、教育委員の皆様には大変お忙しいところ、お集まりいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

平素は、本市行政の推進に、とりわけ教育行政につきましては、子ども達の教育の充実発展ならびに芸術・文化の振興等に多大なご尽力を賜っておりますことに対しまして、重ねて感謝を申し上げるところでございます。

言うまでもなく総合教育会議というのは、首長部局、そして教育委員会部局が共に連携を取りながら、栗東市の教育をさらに高めていくということが目的でございます。この後、皆様方から貴重なご意見をいただきますことを、心よりお願いを申し上げるとともに、平素からお世話になっておりますことに重ねて感謝申し上げ、お礼とお願いの挨拶にかえさせていただきます。

なお、本日は「栗東市教育方針(案)」「公立の幼稚園、小中学校の給食について」を議題としておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。開会にあたりましての挨拶に

かえさせていただきます。

大角教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。ここからは栗東市総合教育会議の設置要綱の規定に従いまして、会議の議長を市長にお願いいたします。

議長：竹村市長

それでは私から議事の進行を務めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

議題（１）令和５年度、栗東市教育方針（案）について説明をお願いします。

安土教育長

それでは、令和５年度 栗東市教育方針（案）について、説明をさせていただきたいと思っております。前段の「はじめに」については、私から説明させていただき、「具体的な取り組み方針」については、順次、課長よりご説明させていただきます。

今日は本当にお寒い中来ていただきましてありがとうございます。

スライド、後ろの方が見えなくて申し訳ないですけれど、先日の打ち合わせの時と、どこも変わっておりませんので、ご了承いただきたいと思っております。それでは座らせていただいて説明させていただきます。プリントを見ていただいたらいいのですが、昨年度の教育方針の内容をできるだけシンプルにまとめさせていただきました。それと新たに５年度ということで、私が、何とか自分の思いを具現化したいという思いで作らせていただきましたので、皆さんと共有していきたいと考えております。

文章をパワーポイントに要約してまとめさせていただいて、最終的にはこの方針を議会へ提出させていただいた後、今度は我々職員或いは関係部局の方の職員等も協力するためにもこういった資料を用いながら説明していけたらいいなという思いで作らせていただきました。

積極的に先を見据えた新たな時代、栗東のまちづくりという形で市長の施政方針にも掲げてありますが、それを受けまして、みんなが輝くまち Next りっとう！新しい栗東を教育分野に携わって作っていかうとそうように考えております。

はじめの部分ですが、教育の目標。大ざっぱに言うと、これからの時代に生き抜く力をつける。よく生きる力って言い方をされていますが、これからの時代を生き抜く力をどうして付けていくか、学力も含めて考えていかなければいけない。と言われております。これからの時代ってというのはどういった時代というのはよく言われていますが、先行きは不透明で将来予測が困難。想定外の震災が起こったり、或いは今まで安定してた仕事っていうのが、もうほとんどAIとか、そっち側に変えられている。なかなか先の見通しは今までとは違う。そういったところをどう生きていくかというのがこれから時代に問われる部分になると思っております。実際に栗東市の現状を見ますと、不登校の問題であったり、ネグレクトの問題。

保護者からの過干渉、或いはヤングケアラー、そして子どもたちの低学力、そして、我々教員自身の不足してる部分、そしてその教員の指導力、煩雑な学校環境、学校における役割も、年々やはり変わってきています。そして地域の魅力をどのように、まちづくりを活性化させていくのか。そして学校っていうのは、特に教育力って言われてるのは15歳まで。そこから長い人生、どのように生きがいを持ってやっていくのかというのをこれからの栗東は考えていかなければいけない。そのように考えています。

栗東市の教育の基盤として、0歳から15歳を経て成人に至るまで一貫した子育てと、そして魅力ある生涯学習、どのようにつなげていくのか。というのはやはり学校教育だけじゃなくて生涯学習も含めて考えていく必要があります。キーファクターというのは、連続性と非認知能力と言われている部分です。また後で詳しい内容は説明させていただき、そして最終的には、ウェルビーイング、健康で充実した生活にどのように結びつけていくのか。一時の幸せ個人の幸せだけじゃなくて、みんなでどういった人生を歩んでいくか。充実した生活。そういったところがやはりキーファクターになってくるのではないかなどそのように考えています。そこで、栗東子育て教育Nextプロジェクト、3年前から、本市で取り組んでいるそういった部分をしっかりと、位置付け、そして学校教育を中心とした、このプロジェクトを通して、最終的に生涯にわたるウェルビーイングが生活に結びつけていけるといえるのか、そのように考えています。

そして、自己肯定感が高く、笑顔が溢れた子どもを育むまち。これの連続性と非認知能力の育成を通してつけていかなければいけないなというふうに考えます。非認知能力とは、よく言われていることなんですが、IQとか学力テストで計測される能力、それが見える力といって認知能力。授業に合わせる部分ですね。忍耐力があるとか、社会性があるとか、意欲的であるとか、自制心がある。或いは回復力。対処能力、グリットとかレジリエンスとか言われている部分。そういった部分を生きる力と言われています。そういった力っていうのは、非認知能力と言われてなかなか数値化できない。見えにくい能力でもあります。学力とかそういった部分のベースになると、やはりこういった力がついてないと、最終的には認知能力も備わっていかない、そのように言われています。そういった力っていうのは、実際は人から学び獲得するものが非常に大きいです。そういった部分を、日本ではしつけという言い方をされています。栗東には子育てのための12か条。これは、家庭や地域の中で、つけていくものが多くなる。よく教育と言われている部分は、学校教育だけじゃなくて、家庭教育、或いは、地域、生涯教育って言われているその三つの大きな柱の中で、家庭と地域の中にそういった部分。しつけと言われている部分も、この非認知能力の育成には非常に重要だなとそのように言われています。

少し本筋からずれるかもしれませんが、いつどこにお金をかけるかということで、よく使われている図ですけれど、就学前縦軸はお金をどれだけかけるか、横軸が年齢で表した図でいうと、特に就学前であったり、学校教育の初期の段階で、幾らたくさんのお金を入れることで、有効的な効率的な収益率が望めるという、ヘックマン教授の図です。特に社会経済

或いは教育経済学で言われてる部分でいうと、人的資本の投資はとにかく子どもが小さいうちに行う方が有効であるということはよく言われています。これもヘックマン教授の分析ですけれど、特にアメリカのペリー幼稚園プログラム、聞いたことがある方もたくさんおられると思いますが、社会収益率を簡単にまとめたものです。4歳の時に100円が65歳の時に6千円から3万円になって社会に還元されるというものです。小さいときに、我々教員もそうなんですけれど、おぎゃあと産まれて特に3歳、或いは5歳、そういったところまでどれだけの力が備わることによって、あと中学校、高校、或いはそれ以上の大人になっても、やはりこの収益っていうか要するにコストパフォーマンスがだんだん悪くなってくるわけなので、そういった部分っていうのは、直に感じる部分です。

そういった部分で、ポイントを生涯どこにお金をかけていこうとか、もちろん教育だけではないんですけどそういった部分の考え方っていうのは我々教員自身もやはり、考えていかなあかんかなというふうに考えています。

新たな時代のまちづくり。これを教育の分野に関わっては、子育て教育Nextプロジェクトを通して、やっていきたいと思います。栗東の強みっていうのは何だろう。という部分でいうと市ではやはり自然。金勝の山の施設、観光、或いは教育、スポーツなどの拠点、そういったものをやはり充実させる。交通・企業立地、今この栗東のある部分、非常に旧道もたくさんあって、これも最先端の技術を持ってる企業もたくさん入ってきてくれています。そして交通の要素では、そういった部分を、学校教育とか生涯教育にどう生かしていくか。或いは健康というキーワード。スポーツの推進と予防医療。そういった部分を、やはり複合的に考え、これはもちろん、教育委員会だけでできるような内容でもありません。やはり総合的な戦略として、市全体を通して、いろんな各課協力、関係機関と協力しないと難しい部分かもしれません、やはりその辺はみんなで一致団結しながら考えていく課題でもあるし、その強みをどう生かしていくかというのは、栗東の子どもたちの将来に、関わってくるのではないかな、そのように考えています。

子どもの教育から生きがいのある社会をどのようにつなげていくか、ということでこの教育方針、8つの柱。これは教育振興基本計画にもあります通り、具体的な取組方針についてはそれぞれの課から説明していただりますが、1. 人権・同和教育の推進のキーワードとしては「つながる絆」、2. 就学前教育の充実の充実は「人格形成の礎」を作ってもらおう。3. 学校教育の充実「将来を切り拓く」ためにしっかりと学習を進めていく。そして教員の力、教師力を高めていくというのが非常に重要なキーワードになってくる。そして、4. 生涯学習の充実「学び続け生きがいを感じる」やはり社会、栗東市には100歳大学等、そういった生涯を通じて学ぶ機会を充実させていくことっていうのは重要だというように思います。5. 青少年の健全育成「まちの宝」。青少年の健全育成って、青少年っていうのは「まちの宝」だから、どういうふうに育成していくか、6. 生涯スポーツの振興「楽しむ健康」、生涯にわたってスポーツをする。学校のときだけ、例えば部活動だけ頑張ってるスポーツをする。少年団の時だけ頑張ってるスポーツをするのではなくて、大人になっても、お父さ

んお母さんになっても、或いは年配の方は、スポーツを通じて、ピンポイントで。それは医療費の削減にも繋がってくるわけですし、そういった部分で考えていかなければいけないというふうに考えます。7. 市民文化や芸術の振興「豊かな生活」、そういった部分は豊かな生活に欠かせない部分だと思っています。図書館の充実等も生涯学習も含めてといったところも、今後そういったやり方がいいのかっていうところも考えていかなきゃいけないなど考えます。

8. 歴史文化資産の保存と活用「郷土の魅力発信」、栗東には、私もこの席に座ってからで不勉強で申しわけなかったんですが、素晴らしい資産がたくさんあります。発掘の中から出てくる鉄器であったり、或いは歴史的な家屋であったり、それをどのように、ただ単なる保存だけでなく、いかに活用していくか、そして、学校教育の場でもそういった場所を利用して、自分たちが住んでるこの地域にはこんな誇れるものがあるのか、子どもたちも感じる事が、将来にわたって、自分がここに住んでいくんだという方向に繋がるんじゃないかなというふうに考えます。先ほども言いましたが、最終的には健康な生活に繋がっていくウェルビーイング、そして、市長も申し上げてくださってますが、楽しいまちをつくる。そういったこの8つの方針を充実させていくことによって、みんなが楽しい町をみんなで作っていくんだ。そういった発想に繋がるのではないかとそのように考えています。ということで、ざっくりと説明させていただきました。この後それぞれの課の方から具体的な方針について説明をよろしく願いいたします。

松浦人権教育課長

具体的な取組方針について説明させていただきます。

#### 1. 人権・同和教育の推進「つながる絆」

人権が尊重されるまちづくりをめざして、部落差別問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決のため、就学前教育、学校教育及び社会教育等の各分野において、多様な機会と場を捉えて取り組みを進めてきました。その結果、人権問題に対する理解や認識が高まりつつありますが、インターネット社会における悪質な部落差別事象をはじめ、未だに予断と偏見による差別事案・事件などが発生しています。そこでこのような今日の状況を踏まえて、より一層市民一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、差別や偏見のない住みよいまちづくりをめざしていけるよう、自治会の身近な人権課題の解決に向けた主体的な地区別懇談会取組や、市民のつどいなどテーマや手法を工夫した各種研修会を実施します。また、栗東市人権教育地域ネット事業により、学校・園と地域が連携し、小学校区・中学校区ごとの研修会などを通して、人権が尊重された学校・園・家庭・地域の実現をめざします。

さらに、「2021 から 2025、栗東市人権・同和教育基本方針」ならびに、「第5次輝く未来計画（人権・同和教育推進5カ年計画 2021 から 2025）」に基づき、一人ひとりが差別解消の当事者として行動できる教育・啓発を進めます。

内田幼児保育課長

## 2. 就学前教育の充実「人格形成の礎」

就学前保育教育では、人権を基盤として子どもが心身ともに満たされ安定して自立していくために、子ども一人ひとりと受容し、「心も体も健やかな子ども」「よく考え行動し、思いやりのある子ども」「よく遊び、豊かな感性と創造性にあふれる子ども」の育成に努めます。そして基本的な生活習慣の定着と、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培います。

また、0歳から15歳までの育ちの連続性を重視した「栗東子育て教育Nextプロジェクト」を推進し、多様で豊かな生活体験を積み重ねながら。「遊び」を通して学びを深め、非認知能力を育てていきます。就学前から小学校へは、子どもの「育ち」をつなぎ、発達と学びの連続性・一貫性のある教育・保育を円滑に行えるように取り組んでまいります。

さらに、家庭との連携を深め、保護者と相互理解を図り、家庭の子育て力の向上を目指すとともに、地域の人々と連携・協働しながら、子育て支援に取り組みます。

すべての家庭が安心して子育てをし、子どもたちが健やかに成長していくために、職員自ら学びを深め、資質向上に努めます。

黒川学校教育課長

## 3. 学校教育の充実「将来を切り拓く」

学校教育では、将来を切り開く力をつけることを目指し、これまでの「くりちゃん元気いっぱい運動」や「子育てのための12か条」の理念を継承しつつ、0歳から15歳を経て成人まで、連続した成長を支える「栗東子育て教育Nextプロジェクト」を推進し、非認知能力の育成に努めます。

確かな学力の育成については、GIGAスクール構想事業によって配備したICTツールの活用も含め、小学校での「きらりフル チャレンジ（くりちゃんチャレンジ）」の実施、中学校での「きらりフル チャレンジ～栗東市学力調査～」の実施を通し、学習習慣の定着や授業改善を促進し、学習の個別化と最適化を推進するとともに、協働的な学習活動や話し合い活動により、学ぶ力の向上を図ります。

小学校・中学校の円滑な接続、小学校の生徒指導体制の強化、授業スキル向上を目的に、小学校「教科担任制」を更に充実させ、推進小学校に加配を配置します。

豊かな心の育成については、児童生徒の自尊感情を育む人権・同和教育の更なる推進を図ります。

健やかな体の育成については、「早ね・早おき・朝ごはん運動」や、食べ物への感謝の心などを育む食育を推進するとともに、基本的な生活習慣の定着を図ります。また、安全教育の充実を通じた「自分の命は自分で守る」子どもの育成を図ります。体育や保健に関する指導に積極的に取り組み、子どもの体力の向上と、健康の保持増進に努めます。

子どもたちの育ちを支える取組については、スクールカウンセラー、スクールソーシャ

ルワーカー、日本語指導員の派遣や各種支援員の配置を行うことにより、全ての児童生徒が自己肯定感や自己有用感を持ち、充実した学校生活を送れるよう支援していきます。児童生徒支援教室事業を通して児童生徒支援の充実を図り、またいじめを許さない学校づくりや特別支援教育の充実に努めます。

信頼される学校づくりについては、地域に根差し開かれた特色のある学校づくりに努めます。さらに家庭学習を支える ICT ツールを活用し、欠席児童生徒への支援や不登校支援について幅広い実践を継続していきます。

教職員の資質向上については、ICT 環境の活用に向けた研修の充実をはじめ、研究奨励事業の実施や研修講座への参加等を通して教職員の指導力向上を図るとともに、学校教育に対する市民の期待に応えられるよう教職員としての資質の向上を図ります。また、校務支援システムの導入・運用により超過勤務の解消を進め、教職員が元気でやりがいを感じられる学校の働き方改革を推進します。

#### 大角教育総務課長

教育環境の充実については、大宝西小学校の大規模改造による施設老朽化対策やトイレ内部環境改善を行うとともに、栗東中学校 LED 化工事や葉山中学校のグラウンド改修に向けた設計業務に着手し、適正な教育環境の改善を図り、学校教育の円滑な実施に資するよう計画的に環境整備を進めていきます。

#### 西江学校給食共同調理場所長

学校給食共同調理場では、学校給食衛生管理基準に則した運営を行い、安全・安心で栄養バランスのとれた給食提供と給食を生きた食材として食育を推進します。

また、学校給食 5 日制の実現については、受益者負担の原則を維持しつつ関係者と協議の上、可能な限り早い段階で実施してまいります。

#### 赤井生涯学習課長

##### 4. 生涯学習の充実「学び続け生きがいを感じる」

生涯学習は、市民一人ひとりが主体的に学習し、それを活かした活動を地域づくりへと展開することにより、生涯学習のまちづくりへと繋がっていきます。こうしたまちづくりを進めるため、各学区コミュニティセンターなどの地域の身近な会場にて、各種講座・教室等を開催します。内容については、ニーズの把握を行い、地域の今日的課題を踏まえながら推進します。また、学んだことを地域などで生かしていただけるよう、地域振興協議会や自治会等とも連携します。いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも自由に学び、学ぶこの素晴らしさに気づき、自己を豊かに高めていくため、生涯学習の推進を図ります。

西村図書館長

「第2次栗東市図書館基本的運営方針」に基づき、本館、西館がそれぞれの役割に合わせた資料の収集、提供を行い、効率的な図書館サービスを展開します。併せて「第3次栗東市子ども読書活動推進計画」に基づき、児童書の収集、提供を行い、市内連携施設と連携し地域や家庭で子どもが自然に読書に親しみ、自主的な読書活動ができるように支援します。

多様なニーズに対応するため、図書館、歴史民俗博物館、自然観察の森や自然体験学習センターといった生涯学習施設の活用を図り、学習機会の拡大や学習情報の提供に努めます。

赤井生涯学習課長

#### 5. 青少年の健全育成「まちの宝」

青少年を取り巻く社会環境が大きく変化している中で、次代を担う青少年の健全育成は社会の責務であり、青少年が心身ともに健やかに成長することは市民すべての願いです。

そのため、子どもたちの育ちにおける発達の連続性と非認知能力の育成課程において、今まで実施してきました「子育てのための12か条」と「栗東子育て教育Nextプロジェクト」を通じて、家庭、地域、園、学校や関係機関等と連携しながら積極的に推進していきます。「地域の子どもは地域の見守り、育てる」意識を持ち、家庭や地域社会など社会全体で子育てに関わり、同じ目標を持ち、子どもたちを守り育てる環境づくりに努めます。

また、青少年の非行防止や健全育成を図るため、少年センターでは警察や少年補導委員会をはじめとする関係機関との連携を深め、各校・園での非行防止教育等の開催、支援の必要な青少年やその保護者へ相談活動、有害環境浄化活動に取り組みます。さらに、補導・啓発活動では、青少年への注意・助言とともに、対話、声かけを大切に、青少年の非行や不良行為の未然防止に努めます。

小山教育部次長兼スポーツ・文化振興課長

#### 6. 生涯スポーツの振興「楽しむ健康」

スポーツは、心身の健全な発達に必要な不可欠であるとともに、人と人との繋がりを深め地域コミュニティの再生をはじめ、人生をより豊かで充実したものにします。こうしたスポーツの意義に対し、昨今の高齢化や健康志向の多様化により、スポーツ振興への期待が高まっています。「第2期栗東市スポーツ推進計画」に基づきながら、市民各々のライフステージやライフスタイルに応じ、スポーツに親しむ機会や施設を充実させ、スポーツを通じた健康増進により健康寿命の延伸につなげ、健康長寿社会の実現を目指します。

中学校の部活動の地域移行におきましては、適切な指導者の確保や指導者運営体制の受け皿整備などの構築を図る必要があります。

また、2年後の国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会を見据え、スポーツ協会をはじめ、各種団体と連携し競技スポーツの振興と競技者の育成を図るとともに、開催への準備を進める中で、大会を通じてスポーツを楽しむ機運の醸成を図ります。



## 7. 市民文化や芸術活動の振興「豊かな生活」

文化・芸術は、創造性や心のつながりを育み、相互に理解し尊重し合う社会を形成する礎となるものです。これらの意義を通じて、市民の生活を心豊かで充実したものにするため、「第2期栗東市文化振興計画」に基づき、誰もが身近な生活の中で音楽や芸術を感じ、文化・芸術に親しみを持てる可能性を広げる文化芸術活動に参画できる機運を提供します。

スポーツの振興と同様に、中学校の部活動の地域移行におきましては、適切な指導者の確保や指導者運営体制の受け皿整備などの構築を図る必要があります。

また、栗東芸術文化会館さきらを継続して市民の文化芸術活動の拠点施設として位置付け、指定管理者を中心に文化協会、音楽振興会等の団体とも、市民に親しまれ誇れる芸術文化事業を推進します。

## 8. 歴史文化資産の保存と活用「郷土の魅力発信」

歴史文化資産は市民共有の財産であり、「栗東市文化財保存活用地域計画」に基づきながら、地域や郷土に誇りや愛着を深め、市の魅力発信に活かされるようとりくみを進めます。

こうした歴史文化遺産を大切に守り伝えるため、指定等文化財の所有者などが行う保存、修理事業等を支援し、文化財防火訓練などを通じて防災・防犯に対する意識の高揚と設備の充実を図ります。また、継承が危ぶまれる民族文化財や個人所有文化財などは、価値や魅力を発信しながら保存に努めます。

埋蔵文化財については、開発に伴う調査などの対応を行い、出土した遺物は出土文化財センターにおいて適切に収蔵整理をするとともに、関係機関と連携し情報を発信します。

歴史民俗博物館では、継続的に行っている小地域展などでの調査活動を通して地域資料を収集、保存します。またそうした地域資料は新たな展覧会や事業で活用し、市民とともに楽しみ、広く活動する博物館づくりに取り組みます。

学校教育でも積極的に関連施設の見学や郷土学習を取り入れ、自分たちが住んでいる地域に誇りや愛着が持てるよう工夫をしていきます。

大角教育総務課長

以上、令和5年度栗東市教育方針（案）についての説明を終わります。

議長：竹村市長

それでは、ただいま、令和5年度栗東市教育方針（案）について説明をしていただきました。何かご意見等がございましたらお願いをしたいと思います。

田中教育長職務代理者

今日は重要な会議に遅れてまいりまして、大変失礼いたしました。申し訳ございません。

遅れている間に説明があったのかもしれませんが、いくつか質問させていただきます。この栗東市教育方針のはじめにと8つの具体的な取組方針が掲げられております。その内容については昨年度と大きく変わってはいないかなと思います。ただ、国民スポーツ大会など来年度変わっている点については網羅して掲げておられると思います。今年度、重要な柱が掲げられていないのですが、それは何か意図がありましたら教えてください。それと、羅列的に表記として記載されています。まとめて書くという方式もあろうかと思いますが、この意図もお教えてください。

#### 安土教育長

先程、田中委員からご指摘のありました昨年度まで教育方針のはじめにの次に基本方針ということで三の重要な柱という形を入れさせていただきました。一つめは人権を尊重し人が輝く人権・同和教育平和教育の推進、二つ目が心豊かにたくましく生きる人を育てる一貫した教育の推進、三つ目に郷土を愛し、充実した人生を拓く生涯学習社会教育の推進というふうな三つの柱が別個取り出して書いていたのですが、その部分をすべてこの八つの具体的な取り組み方針に当然網羅されてるわけですので、あえてまたそこで三つ出して、さらにまた八つの具体的な方針っていう部分よりも具体的な内容に説明した方が先ほども羅列したっていうことで、具体性がより一層わかりやすく説明できるんじゃないかなという形で、ちょっと形を変えさせていただきましたわけです。この三つの柱がなくなったっていう意味ではなくってそれぞれの三つの柱を具体的なところに落とし込んでいるとそのように、こちらとしては考えております。

#### 田中教育長職務代理者

そうしますと方針ですとか、重要な柱ということについては、令和4年と変わらないという風に受け止めてよろしいのでしょうかということと、それから今年度、例えば、人権・同和教育の推進ですと、となりに「つながる絆」というようなスローガンのようなものが記載されていますが、それについても思いというのがあるのではないかと思います、そのあたりについてもお願いします。

#### 安土教育長

ご指摘の点でございます。まずこの三つの重要な柱っていうのは当然大事な基本方針ではありますので、それが消えたわけじゃなくてさらにそこは同じように充実させていくってことには変わりはありません。それとこの具体的な取組方針の、この括弧書きの部分は、特にもちろん、これを要約したって言い方よりも特に大事なキーワードとして、人権・同和教育でしたら繋がるっていうふうな、いろんな部分でやはり今分断の社会とかいろんな部分でそういった、どちらかというところと切っていくという部分がクローズアップされてるんですが。子ども同士が繋がる、大人同士が繋がる、そして思いやって繋がって

くってというのが基本ではないかなというような形で書いています。例えば就学前教育の充実「人格形成の礎」三つ子の魂 100 までと言われるように人格形成はそこではやってるんだっていう、特に大事にしたいっていう部分を括弧書きで書かさせていただいております。

田中教育長職務代理者

ありがとうございます。私が思っていたのと、重要なところのキーワードであるということをお教えいただいたので分かりました。それで、十分熟慮できてはいないんですけども、2番の就学前教育の充実の中に遊びというのは、位置づけとしてはどうなのかなと思います。私は、遊びっていうのは一番の大事な事であろうかなと思っております。その辺を教えていただければ有難いです。

議長：竹村市長

はい。それでは幼児保育課長

内田幼児保育課長

就学前の保育教育の中では、子どもたちが、生活を通して生活の中で、日々遊びを通していろんな体験をしながら学んでいます。ですので、遊びという捉えなんですけれどもここが学びであるというような思いで、こちらの方に遊びを取り出して記述しております。

議長：竹村市長

他にございませんか。はい、内記委員。

内記委員

本日の総合教育会議、年1回、市長も出席いただいて我々含めて懇談をさせていただくということで認識しております。先程、教育方針の説明がありました。市長さんも初めて出席していただいておりますので、市長部局に対して幾つかお願いなり、要望なりさせていただきたいと思っております。

まず1点目ですが、先日、治田小学校の方に学校園訪問させていただきました。児童数が増えるということで増築をしなければならないということをお聞きしました。これにつきまして金銭面についても市長部局としてご対応をよろしくお願ひしたい。市長さんの見解をお伺ひしたい。

それからもう1点につきましては、先程田中委員さんからお話がありましたように2025年に国スポ・障スポが開催されます。栗東市も会場になります。またここに書いてありますように中学校の部活動の地域移行の話が全国的に言われています。この点について、充実を図っていただきたいなと思うんですけど、わかる範囲で結構ですので、ご回答いただければ

有難いです。

議長：竹村市長

とりあえず一旦私の方で答えさせてもらって補足があれば執行部の方から。まず治田小学校の増築につきましては、今、予算査定をしている段階で、認識をしたところでありまして、令和7年から対応できるような形で、設計に入らせていただく予算査定をさせていただいて、令和5年度予算を予定しております。増築ということで、今の小学校のプールの横かグラウンドを一部使わせていただいて、増築の予定をさせていただいております。それが1点。

それから国スポ・障スポにつきましても、今委員ご指摘の通りでございます。とりわけ私も8年3ヶ月県会議員をしておりまして、あちこちの市町の国スポの準備状況視察をして参りましたが、それで本市は遅れているというふうに認識をしておりまして、これも来年度の組織、改編に伴いまして、しっかりとこの国スポ・障スポを準備をしていくというようなことを位置付けさせていただき予定でございます。しっかりと準備をしていきたいというふうに思います。またあわせて、単に国スポ・障スポを消化事業で終わらせるのではなくて、この国スポ・障スポを通じて、市民にも新たにまたより今まで以上に、スポーツに取り組んでいただけるようにするとか、或いはこの国スポ・障スポを通じて、子どもたちがよりスポーツに取り組んだとか、いろんなことをしていけないと意味がないと思っております。あわせてせっかく日本各地から来られるので、栗東の色々なところも見たいですし、経済効果を発現させられるようなことにも、取り組んでいく必要もあるのかなということを考えているところです。補足ございましたら。

西村市長公室長兼危機管理監

すいません。今回初めて出席させていただきます市長公室長の西村でございます。特に内記委員さんの方からご質問ございました1点目の治田小学校の増築の部分でございますが、現在、その増築に向けて予算措置の方っていうのは先ほど市長から説明がございましたが、一つ首長部局として考えていかななくてはならないという部分で、ご説明いたしますが、特にこの治田小学校、非常に手狭といいますか、非常に狭いところで、グラウンドが狭いという中で増築をしていくところも、いよいよ場所がなくなってくるような状況も踏まえまして、要は栗東市として、いわゆるその治田小学校地域の中には、近くには、実は治田保育園、非常に老朽化してる。当然その後には治田のコミセン、こちらも非常に老朽化もしているところを考えると、いわゆるその小学校の増築という部分で地域を見ていくということも大事なんですが、あの地域の土地利用というものをどのように考えていったらいいのかということも含めて、将来のいわゆるその地域のあり方、公共施設のあり方っていうところも一方でもって考えなくてはならないというところがございますので、特に今公共施設が集中してる地域の土地利用について、いわゆる組織横断的に議論をしていこうというところで、実はそういうような協議を始めたところでもございますので、そういうところも含め

て、今後、一旦治田小学校の増築をしたとしても、また、生徒数が増えてきたら、また増築ということが出て参りますので、そういうことも踏まえた、今後の土地利用のあり方ってというのは、組織横断的に今後も議論していきたいなというふうに思っておりますので、この部分についてお答えをさせていただきます。

議長：竹村市長

はい、内記委員。

内記委員

ありがとうございました。回答していただきまして大変ありがとうございました。先ほど言いましたように、市長さんとの年1回の総合教育会議ということでございまして、今申し上げました内容以外にも、いろいろ要望していかなければならない部分もあるんですけど、市長におかれましても予算も大変だと思いますけど、出来るだけ教育関係についてご協力をお願いしたいと思います。

議長：竹村市長

はい、ありがとうございます。ほかいかがですか。はい、朽木委員。

朽木委員

失礼いたします。質問でも意見でも何でもないんですけどもちょっと今感じているところら辺の話をさせていただきたいというふうに思います。竹村市長に変わりました初めての総合教育会議ということでございます。新型コロナも3年目突入しまして、第8波襲来中という中ですが、令和5年度の栗東市教育教育方針（案）と絡めて、少し今感じるところをお話をさせていただきたいと思います。

私は、仕事をしておりますときは、滋賀県に勤めておりました。県の出先で湖南市にありますが、近江学園という、知的障がい児が生活する施設で児童指導員という仕事をしておりました。朝起こして着替えさせて朝ご飯を食べさせて、そして学校へ送っていく。それからまた、学校から帰ってきたら、おやつを食べさせて夕方まで遊ばして、夕ご飯を食べさせて寝かす、そういうふうな仕事をしておりました。そんな中平成の5年から4年間、滋賀県中央児童相談所というところの児童指導員、福祉司をしておりました。当時は、県内の多くの学校、中学校が大変荒れてると、そういうふうな時代でございました。それで、その相談の中心というのは、反社会的行動、それから登校拒否のどちらかでした。それで、当時はまだ不登校という言葉はありませんで、登校拒否というふうに言っておりましたし、いじめとか、それから虐待というような相談はほとんどありませんでした。大体がもう、反社会的行動から、登校拒否というふうな相談でございました。それで、相談に来はりますと、親御さんと本人さんと2人で来ます。親御さんは、私たち福祉司が、担当させていただきます。

話をさせてもらいます。子どもさんは、心理判定員が子どもの心の中を聞くというようなことをしておりました。私たちはこの親御さんにどんな話をするかと言いますと、登校拒否も非行も、どちらも、まあ、乳幼児期、お母さんの愛情を十分にもらえなかった。手をかけてもらえなかったという、そういう子どもさんは思春期になったら、何らかの症状を訴えると。その症状が内攻的か外交的か、内攻的な子は登校拒否をするし、外交的な子は、反社会的行動にいうふうな説明をするように教えられて、そういうふうな説明をしてきましたけれども、なんかその辺でじっくりしないなあというような、ことをずっと思っておりました。

それで、先日、保護司会の自主研修で安土教育長から、これからの栗東市の教育と方向性という話と、それから本日も同じような話で、令和5年度の栗東市の教育方針（案）、みんなが輝くまち Next りっとう！という話の、はじめにという部分で話を聞かせていただきました。それは、何かというと、非認知能力というところの話でございました。それを今日も、先日も聞かせていただいて、これだなあというふうに、何か感じるものがありました。教育方針（案）の中にも非認知能力という言葉が4回出てきます。認知能力のは、IQとか学力検査で数値化され、見えてる力だと。非認知能力というのは、忍耐力、社会性、意欲、自制心、回復力、対処能力、創造性、誠実さ、好奇心の強さ、そういったものが非認知能力といわれるというふうなことで、生きる力だというふうに教えていただきました。それで、その生きる力というのは、人から学び、獲得していくものだと、一番近くにいる人というのは、親、それを親からしつけという形で、非認知能力というのは、乳幼児期に獲得していくもんやというふうに理解をさせてもらいました。それからもう一つが、家庭と地域の中で学ぶものということで、これは栗東市の子育てのための12か条。人との接し方5か条、子どもへの接し方4か条、みんなが大切にしたい3か条というふうなことがありますけれども、その非認知能力云々という話を聞かしていただいて、この栗東市の子育てのための12か条を見させていただくと当時はそんなこと何も思わなかったんですけど、今その非認知能力という事を頭に入れて12か条を見させていただくと、よう考えられたなというふうなことを思いました。そして、今後も栗東市の教育というものは、成果が出てくるのは大分先かもわかりません。それからどんな方法、どんな施策があるのかいうのもまだまだ模索中とは思いますが、その乳幼児期に非認知能力、生きる力を獲得していくと、そういう点で、今の非認知能力生きる力の獲得、その辺を充実をさせていく必要があるんじゃないかというふうなことを感じたところでございます。以上です。

議長：竹村市長

ありがとうございます。何かコメントよろしいですか。はい、太田委員。

太田委員

はじめまして。太田です。先日、治田東幼稚園、治田小学校、栗東中学校に学校訪問させていただいたんですけど、私は今中学生と高校生の子どもを育てているんですけど、

そちらの方にはあまり出向くことがなかったので初めての園・小・中学校に足を踏み入れさせていただいて、感じたこと等をちょっと話させていただきたいんですけども、年数的にもかなり年期のある園舎、学校だったんで、子どもたちにいろんな教育とかいろいろ考えていただいているんですけども、子どもたちが生活する中で、幼稚園はすごい寒いな。もう教室から一步出たらもう外と同じ。かわいそうだなあっていう印象がある。小学校もいろいろ増築増築をされてきたという話なんで3年生の校舎はこういう近代的な校舎な感じで、すごく過ごしやすい環境に3年生はいます。でも他の入学した当初、1年や2年、4年5年、もう卒業するであろう6年は寒い中に決して綺麗とは言えない校舎で頑張っている。差が大きいなという印象を受けました。中学校に関しては、中学校も結構年数が経ってて、マンモス中学校だった。そこから多分分離になって栗東西中が出来たと。いう話も知っているのと、結構荒れてたという話も知ってるんですけども、今はもう大分もう良くなってきたという校長先生の話も、聞いたんですけどもその残骸がいろいろちょっと校舎とか壁とかに残ってるという話も聞きました。その残ってる中が一点気になったのが、普通教室はあまり感じなかったんですけども、特別教室だと思うんですけど、カーテンがあまりにもひどく、破れていてというのがすごく気になって。子どもたちもこれからもこの荒れた学校は多分知らないと思うので、今の過ごしやすい学校をイメージして入ってきているんだと思うんですけども、そういう学校教室の荒れたというか、ちょっと言い方悪いけど見すばらしい感じの校舎を見て、どう思うのかなというふうに思いました。保護者も多分そういうところは知らないと思うんですけど、でも外から見えますから、学校の周りをずっと通ったときに、何か教室のカーテンがボロボロだという感じに見えると、ちょっと学校に対する印象も、良くないのではないかなというのがあります。それはそのときに校長先生には一応お話をさせてもらったんですけども、いろいろ要望はしてる。それ以外のことは要望がいっぱいあって、そこまで手が回らないんだというような話も聞きました。市としても予算がなく、いろいろな場面で対処していただいているっていうのも今話を聞いてわかるんですけども、子どもたちに直に、見えるところ、来年4月にまた新しく入ってくる1年生とかも、それを見て、希望が持てるかどうかっていうのは、ちょっと不安なので、色々ある中ちょっと削って、そういう面にも目を向けていただけたらなと保護者として希望いたします。

議長：竹村市長

はい。これは何かコメント。はい、教育総務課長。

大角教育総務課長

学校施設なんですけれども、いろいろ私どもも各学校を回っていて気になるところは修繕等々させていただいております。ただ、実際学校、建物というのは、実際使っている方が一番ご理解されてるということで、学校のヒアリングの中でも、今太田委員言われましたとおり、数々ちょっと修繕するところがございまして、学校からそこまで、例えばカーテンと

か言われましたけれどもそこまで要望がうちの方に伝わってないという事情もございます。その辺、今後詳しくその実情把握して、優先度を決めまして、対応していくと考えております。

議長：竹村市長

太田委員、よろしいですか。

太田委員

優先度からいうと、多分下の方だと思うんで、もうちょっと上の方に上げていただけるように頑張ってください。お願いします。

議長：竹村市長

最後、ご意見ということで承っておきたいと思います。他、よろしいでしょうか。

はい、田中委員。

田中教育長職務代理者

1 頁のはじめにの中頃に、本市では子育て世代の流出がみられますが、という文言があると思います。これが栗東市の課題であろうと思います。令和5年度については、子育て世代の流出が見られますがというのは、このことについては、住環境とか就労とか影響しているでしょうし、先程の治田の状況もお聞かせいただきましたが、もし何か今の時点で、子どもは宝ですし、その宝を外へ減らさないようなお考えがあるようでしたら、お聞かせいただきたいと思います。

議長：竹村市長

はい、川崎部長

川崎教育部長

はい。おっしゃるように子どもの人口につきましては、人口全体としては微増にはなっているものの、子どもの人口が減っている状況です。なぜか子どもは栗東市で生まれるんやけども、その後に出ていかはるという傾向がここ数年顕著に見えてきている状況です。それはなぜなのかっていうのは十分な検証が必要になってくるのかなと思うんですけども、私どもできることっていうのは、できるだけ教育の環境の充実をさせていただく中で、先ほどもございましたけど、素晴らしい環境の中で子どもが育ってもらうのが一番なのかなとは思いますが、まだしっかり分析できてない中で、何とかその辺の流出をとめていく必要があるということが課題なのかなというふうに思っております。



議長：竹村市長

はい、西村部長。

西村市長公室長

市長部局として今のいわゆる若い世代の流出でございますが、おっしゃいますように栗東市は早くからの若い世代の流出は大きな課題であるというふうに申し上げてきた一方で、そこがなぜなんだろうというような分析、検証ができていないようなところが実態でございます。これは竹村市長が就任をされましたときも、このいわゆる30代40代の方のいわゆるその市外流出、これがいわゆる顕著になってくると、栗東市のいわゆる今は人口はわずかに増えている状況ですが、おそらくピークアウトが早く来るだろうと想定してる。ということは、こうした中その方々の、いわゆるその流出をしっかりと抑制する、或いは流入に拍車をかけるというような、やっぱ政策施策を打っていかなきやならない。そのためには、その原因が何なのかっていうようなところをしっかりと分析をしないと、いわゆるその限られた財源を有効にやっぱり投資できないというところがございますので、令和5年度につきましては、まずはこの30代40代の子育て世代の皆さんの流出、これがなぜなのかというのを、しっかりといわゆる検証していくという作業を進めながら、しっかりと栗東市のいわゆるその地域創生、ここの部分に力を入れて、要はその部分に財源を投資していくような形で今後、取り組んでいくというところで、まずは令和5年度はその検証作業をしっかりと進めていきたいというふうに考えております。

議長：竹村市長

よろしいですか。他よろしいですか。これ僕も喋ってよろしいですか。すいません。私もこの教育方針を、ざっとですが読まさせていただきました。それで何て言うかな、当然ここに書かれてることについて、私もそう思うし、この通りであろうというふうに思います。また一方で、ちょっとあれっと思ったのが、私も8年3ヶ月、県議会議員をさせていただいて、その時に、私どもの会派を中心として、特に教育委員会さんに対して、いろんな物を申す場面、私の先輩も含めてですけど見てきたんですけど、要は、滋賀県はその学力が低いと。これに対して何で滋賀県の学力低いんだと。それをしっかりとやっぱり向上させることがまず大事なんじゃないのかということはずっと大きな話としては、申し上げてきました。その中で、今回教育方針案になってるところ読ましてもらいますと、学力向上のその文言というのが見られないんですね。だからあかんって言ってるわけじゃないんだけど、そのやっぱり学校で子どもを教育していくということについて、勉強だけではないです。ただ、やっぱり勉強していくということも、或いはその学力向上ということは大変大事な視点だと思うんですけども、その辺に対するコミットというか、決意みたいなものっていうのが少しどうなのかなということ、大きな話としてちょっと感じたところで、おそらく、いろいろ書かれてること自体が学力向上に向けたものだと、そういうようなテイストなのかもわからない

んですが、もうちょっと何かその辺を栗東として、学力向上について、こういうふうに取り組みますとかというようなことが、少しあってもいいのかなという気がしたんですが、その辺お聞かせをいただけたらと思います。

#### 安土教育長

はい。また課長の方から補足はあるかもしれませんが、私は考えるように、私もずっと教員してましたので学力向上、本当に頑張って取り組んできました。これやったらいいんじゃないのかやったらええんちがうのか、どうしたら学力が上がるか。これは中学校だけじゃ無理やから、これ小学校と連携して、同じような学習形態でやっぱ小学校から絶対やっていかなだめと言って、連携もやりました。もちろん栗東の子っていう形で大ざっぱには括れへんけれど、なぜわざわざ学ばなあかんのっていう部分がやっぱり欠けてる。なんでテストで良い点とらんなあかんのっていうところに執着心がない。ていうのは、先の方これしたらこうなるというモデルケースっていう少ないっていうか、自分の経験の中であんまり持ってない。最初にもお話をさせていただいたんですけど、根本的な要するに、学力というの見える力ですので、草木で例えたら、樹木で例えたら地面の上に生えてる幹であったり、枝葉であったり葉っぱであったり、そこになる木の実であったり、するわけですね。りんごの木だったリンゴの実がたくさんある方がいいわけですよ。おいしい方がいいわけですよ。でもこの非認知能力と言われてる部分は根っここの部分と考えています。見えない部分。しっかりと根を張ってないから、しっかりと栄養も取れないし、少々の台風でポキッと折れたりするわけです。だからその部分が栗東の子は弱いのではないだろうか。勉強って面白いな、わかるようになったら、いろんなとこが見えてきた。こんな人生も歩めるんだなっていうところを、要するに自分の自尊感情を高めるとか、そういうことをやることによって、より今からというの、今我々教員の世界でも教えるよりも、学ぶ力をつけることに主眼を置いています。要するに、生涯にわたって学び続けるという時代ですので、学校でだけ勉強したらいい。例えば良い大学行けば将来安泰やなんていう時代ではないので。だから、そういった部分をどう力をつけていくかっていうことにシフトチェンジのことではないですけど考え、もちろん学力は当然上げていこうと。測る力もないと調べられない。だから、授業形態も、これから Next では、話し合い活動の授業形態を工夫することによってわかりやすい授業に努める。当然そういうことによって結果的には学力が絶対上がると思います。考え方としてはこの認知能力を上げることと同時に、授業形態も工夫して、そのためには我々教員の方も頭の切り換えをしていかないと、ということで、今もうモデルケースとして、中学校小学校でも取り組んでもらってる部分があります。変な話ですけど、この非認知能力を上げるためには、げた箱の靴をかかとを揃えて置こうということもやっています。そんなことやって勉強賢くなるのかと言われるかもしれませんが、そういった基礎的なところをしっかりとやることによって、学習習慣とかも当然ついてくると思っています。だからそういった取り組みは、ここには、面と向かっての学力ではありませんから、当然その裏にあるのはそう

いった部分がついてくるだろうと、このように考えてはいます。

議長：竹村市長

滋賀県の学力テスト、いわゆる全国やってるやつは、低く、話題にはなりますよね。その中で滋賀県の中で栗東ってどれぐらいなんですか。はい、お願いします。

黒川学校教育課長

全国学力学習状況調査ですね、平均正答率で言いますと、全国平均より県平均が少し低く、栗東市は押しなべていいますと、平均でいくと。概ね2ポイントから3ポイント下回るような状況であります。それも学校によって格差があります。もちろん県のトップクラスである学校もあるんですけども、低位の学校、学校によって幅広いと認識しております。

議長：竹村市長

ちなみに今やったら、9小学校3中学校ありますよね。それが結構でこぼこがあるっていかさういご説明あったと思うんですけど、そこは、その分析みたいになっていのは何かされたりしてますか。

黒川学校教育課長

市としましては市全体としての分析を毎年行い、それに対する対応策といたしますか、学力向上策というものを作成して進めているところです。もちろん、学校それぞれによって学校の結果も毎年分析をし、教育課程の計画に反映させている。また授業改善に取り入れるというところで、教育研究所でもそのデータを活用しているようなところです。また個別に結果を返してですねその個人の学力特性ですね。強みや弱みについてやはりフィードバックしていきながら、個々の学習が有効に進められるように、個別指導ができるようなことを進めている状況でございます。

議長：竹村市長

学力テストは、コロナを除いてずっとこの間、やってますよね。当然その間に子どもはどんどん入れ替わっていきますよね。その傾向としては、9小学校3中学で大体同じような傾向になってるんですか。

黒川学校教育課長

もちろんその地域性といいますかそういったところはございまして、学校の特徴というのがございます。ただしですね、ここ過去10年ほど見ていますと、その要素も変わってきてるところがありまして、その要因はいろいろあるかと思えます。流入している人口の部分であるとか、地域の子どものたちの様子が変わってるところも当然ございまして。

その辺も見ながらですね、家庭や子どもの現状に合わせてながら、先ほどから出てきていますような学習習慣の確立であるとか、学校においてはやっぱり、個々にきめ細やかに指導していけるような授業改善であったり、または指導者の確保であったり、そういった課題は多々ございますけれども、今の教育方針の中にはですね、確かな学力の育成ということをきちっと位置付けて書いておまして。これまでも取り組んできていた案件であるとか、そういったものの成果っていうのを確認しながらも、今後今の時代に合った学力を育成していけるようにということで、様々な施策に力を入れていくということです。

議長：竹村市長

先ほどから教育長から、今まさにやってることは、この根っこの部分をしっかりとやっていく。当然そういうことであれば、その成果というのはすぐに発現されるものではないと思うんですけど。ただ一方で、その保護者視点からすると、やっぱり良い高校、或いは良い大学に行こうとすると、やっぱり学力をしっかりと向上させていただきたいという、願いは自然なことだと思うんです。

だからその中で、今のお話であると栗東がその点数が低いのはあまり公になってる話ではないと思うんですけども、一方で、現状、先生が、皆さん教育委員会の中で、何かそのようなものが傾向としては出ていたり、或いはその改善点がこう見えていたりするのであれば、そういったものに着手できるものというのは、その時その時でアプローチしないと、と思うんですけど、そのような動きはもう逐次していただいているということと思うんですけど。そこがなかなか成果として見えてこないのであれば、そこは何なのかなという。だから子どもは毎年入れ替わっていくんで、ではその教え方とか、教える人がどうなのかみたいな、そういう話にもなってきたりするのではないですか。

或いはそのツールとか施設とか、そういったことも問題なのとか、いうことだと思うんですけど、その辺を何かこうリアルに何かこう突っ込んで話をするとこもあるのかなと思ったりするんですけど、その辺は何か教育委員会の中でしゃべってもらっているようなことがあるんですか。

黒川学校教育課長

ありがとうございます。いや、やはりですね、子どもたちが、毎日生き生きと活躍できる活動できる教育現場であれば、学校であれば、学力というのは先ほどありましたように上がっていくものであるはずなんです。そういう学校にするためにはですね、今おっしゃっていただいているような環境整備であるとか、それから子どもたちの現状、先ほど出ました、不登校の問題であるとか、もちろんその各家庭の経済的な状況があったりとか、家庭環境の問題だったりとか、そういったところで、子どもたちが落ち着いて学習できる学習に向かうようなものをどのように、支えていくのかといったところで、課題が多様化しすぎている。それに加えて、特別支援に教育関わる子どもたちが、どんどん増大している状況や、多種多様

な学校における課題があるんですね。学校としましてはそういったものを、何とか下から支えて子ども達がしっかりやっつけていけるように、今全力を尽くしているわけです。なので、例えばICTのものが入ってきている。それを活用して何とかやろう。今与えられてる環境や物を使って、それから今いる人材で、正直言いまして人はもう全然足りてない。今も教師不足です。全国的にもそうなんですけど、そういった中でも、何とか自分たちの力を教育力を上げ指導力を上げて子ども達のために色々していこうという思いであります。ただこの辺りもご理解いただけたらなと思います。

議長：竹村市長

はい。ありがとうございます。私も着任してまだ間もないので、栗東の教育行政自体がどのようなものかは、まだまだ私自身が知らない。或いは認識をしていないところが多いわけですので、またその辺、いろいろ所、手を入れていかなければということであろうとは思うんですね。ただ一方で予算の加減とかそういうところで、やりたいけどできないことなんかもあると思うんですが、ただ目指すものというものに対して、やっぱり頑張っていく姿勢であるとか、何とかそこを突破していくための知恵とか、お互いに考えていかないと。まさにそれは教育委員会だけの話ではなくて、今日こういう会議をしていることも、そのための会議だと思いますので、そういう意味では内記委員の方から年1回のお話がありましたが、私自身はもうこの年1回でいいのかと。もっとこの各論の話をこの総合教育会議の場で議論をもっと深めていきなり、深掘りした話になっていかないのかなと。要は、帳面消しみたいな会議では意味がないということも思っております。今、いろいろ私も意見させてもらいましたが、基本的には私も学校はその勉強だけではないし、色々な学びがあって、私自身もそんな勉強得意な方ではありませんでしたので、そういう意味では、人間を良くするのは勉強だけじゃないというのは理解もしますし、ただ一方で、学校は学力を上げる場所でも、当然これはあるわけありますので、その辺また一緒になって、良い学校現場ができるように私自身もやってまいりたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。教育方針案につきましては、よろしいでしょうか。

議長：竹村市長

それでは2点目の公立の幼稚園、小・中学校の給食についての議題に移らせていただきたいと思います。

まず初めに、公立の幼稚園小中学校の給食で、私の考えをまずもって述べをさせていただきますと思います。給食の週5日制の実施についてであります。私が栗東市長選に出馬をするに当たりまして、給食の5日制の実施を掲げさせていただきました。この背景につきましては、いろいろ保護者さんの方から要望等もあったというのも、灰聞をしているところであり、そのようなことが背景にあります。まして19市町の中で、栗東市だけがこの週5日制というのを実施をしていなかったこともあります。栗東におきましては、平成30年9

月から、新施設が稼働して、4年が経過をしております。この間、家庭環境の多様化による格差や弁当による栄養の偏りも心配、共働き世帯の増加など、状況の変化に伴い、先ほど申し上げました、週5日制の給食を求める声が上がっていた状況です。こうした中で、安全安心でおいしい給食の提供回数をふやすことで、子どもたちの健康の増進や食生活の一層の安定を図るものと考えているところです。また近年、生活形態が多様化している状況。特に共働き世帯等が増えている状況もあり、保護者世帯の負担軽減にも大きく繋がるものであるというふうにも考えているところです。

令和5年度での可能な限りの早い段階で実施体制を整備し、令和5年の9月からの実施に向けて調整を現在進めているところであります。私からの説明にかえさせていただきます。この5日制の実施については、資料に基づいて、学校給食共同調理場所長より詳細説明をさせていただきます。よろしくお願いたします。

#### 西江学校給食共同調理場所長

資料2の方をお願いします。給食週5日制のまず経緯でございます。現在の栗東市立学校給食共同調理場におきましては、平成30年9月より稼働しまして、その新施設の稼働とあわせて、中学校給食を開始しました。また、子ども議会においてのマイ弁当づくりの提案やお弁当づくりを通して、家族のコミュニケーションが図れ、家庭の感謝の気持ちを持つるといった子どもたちの思いを受け、栗東市立学校給食共同調理場建設検討委員会で、検討いたしまして、引き続き弁当日の取り組みについては、実施していくということで進めてきております。

その中で令和4年6月議会において、公立の幼稚園、小中学校の週5日の完全給食を求める請願が提出されまして、保護者、子ども、教員へのアンケート導入による実態把握や、学校給食共同調理場運営委員会での意見聴取を求められました。令和4年7月から8月にかけてアンケートを行いまして、令和4年11月8日開催の学校給食共同調理場運営委員会での意見をいただいております。その内容を説明いたしまして、令和4年12月議会において、請願が採択された状況でございます。その7月から8月にしましたアンケート結果と、学校給食共同調理場運営委員会の意見につきましては、児童生徒は好きなものが食べられるという理由から、弁当日を望む意見が多く、また、弁当づくりが、家庭に負担がかかっているという意見も多い状況でした。保護者につきましては、給食を望む意見が多く、弁当づくりが負担に思われているようでした。また、弁当の衛生面や栄養面を心配されている意見もございました。教職員は一長一短ある中で、家庭の形が多様化しており、支援が必要な家庭には給食が必要であるという意見もございました。そういう内容を運営委員会で説明いたしまして、週5日の完全給食が望ましいという意見をまとめていただいたような状況でございます。

それで次にスケジュール案でございます。実施時期につきましては、学校、保護者への周知期間や調理配送、配膳等委託業者と、幼稚園の配膳員等の体制整備を考慮しまして、令和5年8月の委託業務の更新時期に合わせて、9月からの開始で検討を進めております。裏

面のスケジュールをご覧ください。上段の請願意見聴取は先ほど申し上げましたので省略させていただきます。調理、配送、配膳等委託業務につきまして、平成30年8月から令和5年7月の5年の今の現契約が終了いたしますので、令和4年の9月議会で、5年間の債務負担行為の議決を受けまして、11月にプロポーザル方式によりまして業者選定を行いまして、12月に仮契約をしているような状況でございます。この仮契約を、3月議会で議決を受けて、本契約として締結させていただいて、令和5年8月から新契約を開始する状況です。保護者や学校等への周知につきましては、3月ごろから新年度の給食費等の通知を出す段階で、9月から給食5日制の開始を通知するような形である状況でございます。表面に戻りまして、下の方に戻っていただきまして給食費につきましては、小中学校は、令和3年度から月額固定しておりまして、小学校は月3,400円、中学校は月3,800円で徴収しております。受益者負担を原則に、週4日から5日への変更に伴いまして、小学校におきましては4,250円、中学校については4,750円に変更することで考えています。また、給食センターで週3日給食を提供している幼稚園の給食費につきましては、現行2,430円ですけども週3日から5日に変更することに伴いまして、今現在、週5日給食を提供している園がございますので、その園と同じ金額の4,170円に変更していく形で考えております。以上です。

議長：竹村市長

はい、ありがとうございます。今も説明のありましたように詳細な説明をいただきました。令和5年8月にこの給食の調理業務をしていただく業者が変わることになります。

このタイミングで、週4日から週5日制に変えていきたいというようなことでございます。4月からできればよかったんですけども、今もありました通り、その周知期間でありますとか、業者もちょっと変わるタイミングであるとかいうことを勘案をいたしまして、令和5年9月からの移行ということを現在考えているところでございまして、予算もそのような計上をさせていただくということで、現在調整をしているところでございます。これにつきまして、委員の皆様からのご意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。

議長：竹村市長

はい、内記委員。

内記委員

給食の5日制については、時代の流れといいますか、完全実施という意向で市長も当選されたこともございますので、良いと思うんですけども、前もお聞きしたんですけど、委託先の変更もあるかと思うんですけど、食数について、いけるのかどうか、それと地産地消を地元の農協さんとか野菜組合さんとかとタイアップされて実施されているかと思うんですけど、その推進は今まで通りになるのかどうか、それから給食残渣が中学校を主に以前からある一定数あったかと思えます。それは何とか改善できる方向で努めてもらいたいと思うん

ですけど、これらにつきまして、お聞かせ願いたいと思います。

議長：竹村市長

はい、学校給食共同調理場所長

西江学校給食共同調理場所長

まず週5日制で給食した場合、現在の容量の関係ですけれども、現在の稼働状況につきましては、曜日別で言いますと、最も多い稼働が月曜日の7,400食。最も少ない稼働が金曜日の4,600食という形で、だいたい一日平均6,100で動いている状況です。曜日によって食数が違うというのは、弁当日がございますので。当施設の設定食数は、最大8,000食で造られているんですけど、週5日制で試算すると、7,800食という数字が出ておりますので、その中で収まりますので、対応できるものと考えております。それから地産地消の関係につきましては、今現在栗東市の野菜についてはJ Aを通して、まず栗東産を中心に献立を組まさせていただきます、足りない分については滋賀県産、それから他の産地という形で何とか近いところから順番に使っているというような状況であります。今現在でも正直、栗東産の野菜がちょっと全部補えるという状況ではないので、増えれば、滋賀県とか、他の産地のものを使っていくという状況になっております。

それから残渣を減らせる取り組みとしまして、毎月給食だよりを出させていただいて、牛乳が成長期に大切なカルシウムの摂取に役立っていると、季節に合わせて食事が体調管理に大切であるとか、栄養バランスの食事が大切であることなど、好き嫌いをしないような形で、重要性を啓発して、そういう啓発をしたり、あと栄養教諭が学校に出向きまして、食に関する指導という形で直接子どもたちに、そういう指導をするような形で、何とか残渣を減らすような対応をしているような状況でございます。

議長：竹村市長

よろしいですか。田中委員。

田中教育長職務代理者

給食費の未納について、今現在あるのかないのかということと、ある場合、今後どのような対応ができるのか教えてください。

議長：竹村市長

はい、所長。

西江学校給食共同調理場所長

給食費の徴収につきましては、学校と連携しながら、保護者に近い学校の方で現在徴収



していただいております、令和3年度の徴収率になるんですけども、小学校で99.9パーセント。中学校で99.65パーセントということで、高い数字が出てるのかなと。

それは寄り添った形で対応していただいているという状況があるのかなと考えております。

それで未納徴収に関する対応につきましては、厳しいとかですと、学校で徴収しているその徴収事務を市の方に移管しているところもありますので、その徴収事務の負担軽減もありますし、未徴収に対しての対応が、行政サービスをしていくような流れができないか、今検討しているところです。

議長：竹村市長

はい、川崎部長。

川崎教育部長

今の話ですけども、いわゆる給食費の公金化ということで、その流れにつきましては国の方からもガイドラインを示されてございます。その中で給食については学校が取り扱っているものを市が取り扱うという中で、滋賀県でも栗東市と東近江市ぐらいになってきている状況です。何とかそういう対応するために、検討を開始しているところなんですけども、当然のことながら、どこが担うのかであるとか、どういう体制でやっていくのか、昨年から検討はしておりますが、できるだけ早いうちにそういった公金管理または徴収については、市の方へ移管ということを進めさせていただく必要があるのかと考えております。

議長：竹村市長

はい、太田委員。

太田委員

今の徴収の件なんですけど、週4日から週5日になるにあたり、増額になるのは当たり前なんですけども、小学校と中学校の増額の差がちょっとあるんですけど、教えていただきたい。それと幼稚園で、週3日から週5日になるので、大幅な増額になるのはわかるんですけども、その辺の保護者の理解はどうなんでしょうかね。そんだけ2,400円だったのが4,000円、倍近く上がるのに、それでも給食にしてほしいというのか、納得が得られるのかどうか教えてください。

議長：竹村市長

はい、西江所長。

西江学校給食共同調理場所長

まず金額につきましては、4日から5日ということで4分の5で小中学校の方は考えさせ

ていただいて、積み上げた形にしておりまして、それで小学校と中学校が金額違うというのは、栄養摂取基準の中で管理が違いますので、そこで違いが出てきております。それで、アンケートの中にも、保護者の方が給食費が上がってもいいので、5日にして欲しいという、皆さんではないかもしれないんですけど、そういう記載もございましたので、その辺は理解を求めていく形で進めていきたいと考えております。

議長：竹村市長

はい、太田委員。

太田委員

アンケートなんですけども、児童は多分学校でしてるから、結構回答率高いんですけど、保護者は多分学校からのお手紙通知で、各自してくださいということだったと思うので、その認知がどこまでかっていうと結構低かったのが、学校によっては1割も満たないアンケートの結果があったりとか、その結果を見て、保護者の方回答率がすごく低い。全部の保護者に対する半数もいかない。それらの意見をどこまで重視するのかっていうのを、少し疑問に思うのと、今市長も言われましたけども、共働きの家庭が増えて、お弁当をつくるのがすごく負担がかかるのも最もだと思うんですけども、それは多分、全部が全部じゃないと思う一部の意見だと思うので、その辺の意見を、どこまで重視されたのか、あと栄養面が偏る。1週間に1回のお弁当を、極端に言えば冷凍ものにしたからといって、どれだけの栄養が、その子どもに対して不利がかかるのかというのはまた教えていただきたい。

そういう方に朝晩のご飯、晩御飯、朝御飯。平日休日のお昼ご飯、どれだけの栄養を考えて作っておられるのかというのを保護者の1人として、すごく伺いたい面もあります。一概にどうなのかなっていうふうには思います。あと、6月の議会において、公立の幼稚園、小中学校の請願が出されて、保護者にアンケートを実施されたんですけども、生徒はお弁当を望む意見が多かったっていうのはわかります。ただ、中には、給食は自分が知らないものが入ったりとか初めての味だったりとかっていうのに、すごく不安感不信感を抱いている子がいるのも確かなんです。そういう子は、親が作ったお弁当に安心して食べられる、むしろ1日でもいいから、安心してお昼が食べられる時間を持つことはすごい子どもの心にも、いいことだと思うんですね。だからそういう子どもがいるっていうのにも目を向けて欲しいし、全体的に給食が美味しい大好きだっていう意見もある反面、まずい、美味しくないという意見もあるのは確かだったんで。その辺も、今後週5日にするんであればその辺の改善をしていただきたいと思います。

それと、食育に対して、保護者への感謝とか、ありがとう感謝の気持ちが育まれるというふうには、繋がっていくとは思いますが、指導、食育、今後はどのように考えておられるか、教えていただきたいなと思います。

議長：竹村市長

はい、西江所長。

西江学校給食共同調理場所長

アンケートの内容を言っていた部分、確かにあるなという感じで一長一短ある中で、給食が、家庭格差や支援が必要な家庭に対しても、経済的に苦しい状況にある子どもたちでも、みんな同じものを食べることができて、経済的な格差を感じなくてもいいように設計されたものという側面もあると考えております。それでアンケートをまとめていく中で感じた部分を言ってもよろしいでしょうか。共働きの増加であるとかストレス社会とか言われてる中で、保護者は週1回弁当作りが、朝忙しいのもありますし、自分が病気とか家族が病気のときなどに作る負担がかなり多いような感想を感じました。また忙しいので、栄養は二の次になって、好きなものを、いや、同じようなものを入れてしまって、子どもの健康を望む保護者ほど、逆にその栄養の偏りも心配されて、ストレスを感じるような側面があるのかなっていうのを、まとめていて感じておりました。子どもたちは、家では食べられなかったものが、給食で食べられるようになったという意見もありますし、私も毎日食べておりますが、旬の食材とか、いろんな食材を使っておりますので、それは食育にも繋がっていると、自負してるところもあります。それで小さい部分になるんですけど、子どもたちは給食のデザートがついてると喜んでくれるんですけども、食数をならすために中学校区ごとに弁当日をずらしてるんですけども、弁当のない曜日は月曜日と水曜日になるんで、その2日の中にデザートを入れていくような形で、カロリーとかいろんな計算していく中でつけられるかどうかの部分があって、そういう制限も調理師の方が感じている部分もありますので、5日になることによって、もうちょっと幅広い形で献立づくりができるのかなっていう思いは持っております。

それで食育に関しましては、今、第三次の食育推進計画計画には作るって位置付けで、食の自立と、お世話になる方々への感謝の気持ちを育むっていう、取り組みを進めてるんですけども、弁当もそうですけど家庭の食事で作るっていうことの取り組みをしているところです。感謝の気持ちを育むでは、アンケート結果に感謝してるって回答も出てますので、ある程度そういう部分は、一定浸透しているのかなということ考えております。

それで来年から第4次の食育推進計画を策定するっていうことを、取り組むということを担当課から聞いておりますので、その中で、今の方針転換について、の内容をまたいろいろ議論していくことになるかと考えています。

議長：竹村市長

太田委員、よろしいですか。

太田委員

はい。

議長：竹村市長

はい、朽木委員

朽木委員

先ほど給食費の問題が出ましたけれども、私もたまに毎日の食事のための買い物とはいきませんけれども、たまに自分の好きなものとか、孫に買ってやりたいものを買に行ったりとかしますけれども、コロナの関係か、ウクライナの関係か私が行っても、これまでの同じものを買ってもドカーンと400円も500円も高く値上がりしていると、というような感じを受けております。その辺の物価高騰のというようなところ辺、この頃はもうほぼというか、よく耳にすることでございますけれども、この給食費に関して、値上げというのは、どうなんでしょう。

議長：竹村市長

はい、西江所長

西江学校給食共同調理場所長

今年度につきまして国の補助とかも考えながら、給食費を上げないっていう形で、補正予算を組みながら来てるんですけども。上がってる品目はかなりありますけど、まず一つの要因としての栗東市は米飯給食を中心にしておりまして、お米の価格は、若干落ちている状況がございまして、そういう形で総括される中で、給食費に反映するまでは上がってないという状況です。

議長：竹村市長

はい、太田委員

太田委員

先ほど栄養士さんの方がいろいろカロリーを考えて、献立を作ってくださいっていると、ありがたいお話を聞きまして、感謝しております。ただ、今現在、アレルギーの子がいろいろだんだん増えてきているのは確かだと思うんで、そのアレルギーをいろいろ、私はそういうアレルギー体質とかではないので、わからないんですけど、いろいろな細かいアレルギー、こういうのが困るとかいろんながあると思うんですけども、その辺の対応とかは、そういう子どもが増えてきている現状大丈夫なんだろうかな、対処できるんでしょうか。

議長：竹村市長

はい、西江所長

西江学校給食共同調理場所長

アレルギーについては、子どもの命に関わるものですので、十分対応していく必要がありますけども、令和4年度の状況でいきますと、児童生徒数の大体1%程度の状況になっております。栗東市の食物アレルギー対応マニュアルを作っておりますしそれに基づいてしてるんですけども、専用のアレルギー対応室で絶対他の物と交わらないようにしておりますし、子ども1人ずつに専用容器で配送しているような形をとっておりますし、また必要に応じて保護者との面談も実施している状況です。対応につきましては十分そういう対応を図っておりますので、食数が増えることになりましても可能と考えております。

議長：竹村市長

他よろしいでしょうか。

ちなみに野菜、地元産の野菜が全部足りないというか、足りない分は市外で調達しているということですけど、仮にこの市内調達が増えても、コスト的には全然問題ないということでもいいのですか。どっちが高いのかわかりませんが。例えばその地元で生産者の方がもっと頑張っって子どもたちのために、5日制になることで食数が増え、頑張っって私作りますということで、どんどん作っってくれて、もう今の話だったらまだまだ受けられるような話だと思っんですけど、その結果として、コストが上がるのか、それが下がるのかどっちなんですか。

西江学校給食共同調理場所長

栗東産として産地化されてるところまではいっていない部分がありまして、若干、他の産地より高い時もございます。高いのを何とか他の産地と同じような価格にしてもらえないかというお願いはちょっと今しているところなんですけど。うちは消費者としての立場としてJAさんをお願いしたんですけど、品質の良いものと安いものを提供お願いしますっていう形で今増やしてるところです。

議長：竹村市長

地元の農家さんに聞いてると、我々も一生懸命作るしというふうなことはちらほらを聞いたり、或いはもう言っってくれたらこんなもん作るでみたいなことを言うたりしてくれてはる。そこはお願いしますと。出来たらお安くということですね。

西江学校給食共同調理場所長

それと給食の食材の規格を定めてる。大き過ぎてもこの調理をしにくいっていう部分も

ありますし。それで農家の方から何とか規格をもっと緩和してもらえないのかっていう話も聞くんですけど、現在も栗東産は規格を少し緩くしているんです。その中で対応させてもらってるんで、そこは何とかその規格に合わせて何とか良い物を作ってくださいということで。

議長：竹村市長

逆にそこはね、何かもときちつと言うてもらった方が良いつて聞いてますけど。この大きさでお願いしますって今言わんと。

西江学校給食共同調理場所長

それはもう表にして渡しております。

議長：竹村市長

それをこうね、小さいもんでも何でも受けいれろって言われて、はいはいって言うことではないとは思うんだけど。そこはきちつと言ったほうがいいと思いますし。

西江学校給食共同調理場所長

また年1回、食育ファームと喋ったりもしていますので、そういう場も使いながら話をしていきます。

議長：竹村市長

いずれにしても給食5日制については今地元産を通じてと私も思ってますし、切っても切れないところの話なんで。

議長：竹村市長

そしたら意見も出尽くしたようでありますので、2番目の議題であります給食5日制の実施についての議題は終了させていただきます。

それでは意見交換の中で、貴重なご意見等賜りましたことに対しまして、改めて感謝を申し上げますとともに、委員皆様方から力強いお力添えをいただきましたことも、改めて御礼申し上げたいと思います。今後の事業推進に鋭意努めて参りますので、どうぞ引き続きのご支援よろしくお願ひしたいと思ひます。

最後にその他の事項について、この際何かございましたらご発言お願ひいたします。

議長：竹村市長

はい、教育総務課長。

大角教育総務課長

この後、引き続きまして、教育委員会定例会を開催させていただきます。  
10分お時間取らせていただいて、15時35分からお願いいたします。

議長：竹村市長

それでは以上で本日予定しておりました議題は終了いたしました。このあとの進行は事務局でお願いします。ありがとうございました。

大角教育総務課長

本日は議題2項目につきまして、ご議論いただきまして、大変活発なご意見、討論いただきましてありがとうございました。議論いただきました内容を踏まえまして、さらに今後取り組んで参りたいと思います。では、閉会の挨拶を、教育長にお願いしたいと思います。

安土教育長

本日は貴重なご意見をいただき本当にありがとうございました。話し合いの中で私自身も、この市の総合教育会議っていうのに初めて参加させていただきました。いろいろなご意見本当にこれからの教育行政に生かしていきたいなと思っておりますし、市長の方からも中ほど発言がありましたように、この総合教育会議というのは年1回以上開催するっていうのが決まっているわけなので、逆に言えば、何回か数回。やはりこういった場を持って、現在この栗東の教育についての課題を皆で話し合う場っていうのがやっぱり必要ではないかなというふうに考えておりますので、またその辺も定例教育委員会も踏まえながら、ご意見出していただいて、また市長とのこういった場というのはやはり本当に大事な場かなと思っておりますので、活用させていただきたいなと思っております。

冒頭説明させていただきましたけれど、本当にこの栗東の子ども、特に経験不足っていうのもたくさんあります。もちろん学力もあるんですが、自然体験であったり、そして、いろんな経験がやはりない。コロナ禍で、学校行事も大分減ったりもしています。こういった部分でも、またコロナについてのレベルも変わってくると思いますし、そういった経験もさせていきながら、ゆくゆくはやはり学力というか生きる力をつけていくのが本来の目的ですので、そういったところとにかくこう還元していくかも含めて考えていきたいなと思っております。

本日は本当にありがとうございました。

閉会宣言 15時25分